

平成17年度
高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査
にし の の い せ き
西野々遺跡

記者発表および現地説明会資料



日時 記者発表 平成17年11月21日(月) 午前11時～
現地説明会 平成17年11月23日(水) 午後1時～3時
場所 南国市大埴字西野々の発掘調査現場

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

平成17年度 高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査にかかる 西野々地区(西野々遺跡)発掘調査概要

1. はじめに

今回の記者発表及び現地説明会は、平成17年度に実施している発掘調査の成果を地元住民の方々を始めとして広く一般県民に公表するものです。

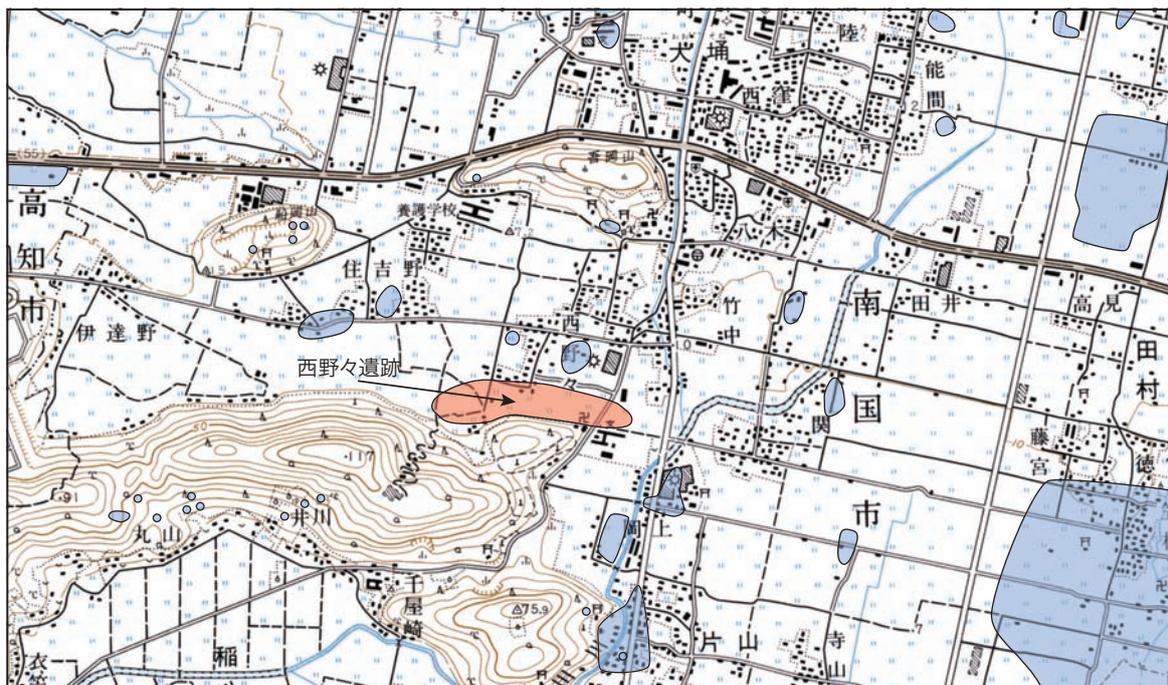
発掘調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している一般国道55号高知南国道路工事区域内に所在する遺跡(西野々地区では西野々遺跡が調査対象)の中で、工事によって影響を受ける部分について事前の発掘調査を行ったうえで出土遺物等の整理作業を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としています。

本年度は西野々遺跡の西半分(Ⅲ区の西半分・Ⅳ区・Ⅴ区)が調査対象で、平成16年度には東半分(Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区の東半分)の調査を行っています。

なお、本発掘調査は、国土交通省より調査委託を受けて、実施しています。

2. 西野々遺跡の概要

西野々地区には、茶田遺跡(古墳時代)が散布地として周知されていたものの、具体的な遺構の存在は知られていませんでした。そのため、平成15年度に事前の試掘調査を実施し、遺構や遺物の有無について確認を行ったところ、工事区域のほぼ全域から中世(鎌倉・室町時代)を中心に弥生時代と古代(奈良・平安時代)の遺構・遺物が確認されました。この結果を受けて、昨年度から本発掘調査を行うこととなりました。なお、遺跡名については、遺跡の範囲が茶田と呼ばれる小字部分以外にも広がることや地元住民の方からの要望もあり「西野々」という字名を使用し、茶田遺跡から西野々遺跡に変更しました。



西野々遺跡と周辺の遺跡

昨年度の発掘調査では、新たに古墳時代の遺構と遺物も確認され、西野々遺跡は弥生時代から中世(一部近世)にかけての複合遺跡となり、最近まで耕作されていた田んぼや畑の下には弥生・古墳時代の集落跡、古代の官衙関連施設跡そして中世の集落跡が人知れず埋もれていたこととなります。さらに本年度の調査において、弥生時代中期から室町時代にかけての水路(溝跡)を中心に数多くの遺構が確認され、西野々遺跡の様相が徐々に明らかになってきました。

3. 調査対象地

南国市大埴字西野々

4. 調査体制

調査委託者 国土交通省 四国地方整備局

調査主体 高知県教育委員会

調査実施機関 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

5. 調査期間

平成17年5月17日～平成18年2月17日

6. 調査面積

(1) 全体

調査対象面積 約18,700㎡

調査総面積 約17,207㎡(上層面:15,432㎡,下層面:1,775㎡)

(2) III区の西半分

調査対象面積 約4,600㎡

調査総面積 約4,103㎡(上層面のみ)

(3) IV区

調査対象面積 約7,800㎡

調査総面積 約6,564㎡(上層面:6,459㎡,下層面:105㎡)

(4) V区

調査対象面積 約6,300㎡

調査総面積 約6,540㎡(上層面:4,870㎡,下層面:1,670㎡)

7. 調査方法

(1) 調査範囲

工事計画区域で工事によって影響を受ける部分について全面発掘調査を行い、遺構面が複数確認された場合には、分けて調査を行います。

(2) 土層掘削

土層掘削については、遺物包含層の上まで機械力(ユンボ等)を導入し、遺物包含層については原則として人力で行い、遺構の検出並びに遺構の調査についてはすべて人力で行います。

(3) 調査記録

調査中は、遺物出土状態の写真撮影と実測、遺構の写真撮影と実測等を必要に応じて^{ずいじ}随時行い、地質学等関連分野の^{ぶんせきちやうさ}分析調査や^{こうくうしゃしんざつえい}航空写真撮影及び^{こうくうそくりやう}航空測量も併用します。

(4) 公開

調査が概ね終了した段階には必要に応じて記者発表及び現地説明会を行い、遺跡の概要を一般に公開します。

(5) 埋め戻し

発掘調査の完了後は、埋め戻しを行った上で引き渡します。

8. 調査結果

(1) 検出遺構

弥生時代：^{みぞあと}溝跡、^{どこう}土坑、ピット、性格不明遺構など

古墳時代：溝跡、ピットなど

古代：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピットなど

中世：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、方形区画墓、^{うねじやう}畝状遺構、ピットなど

近世以降：溝跡、土坑、畝状遺構など

(2) 出土遺物

総点数 約 33,200 点

^{やよいどき}弥生土器、^{ミニチュア}ミニチュア土器、^{はじき}土師器、^{すえき}須恵器、^{はじしつどき}土師質土器、^{かいゆうとうき}灰釉陶器、^{がき}瓦器、^{がしつどき}瓦質土器、^{せいじ}青磁、^{はく}白磁、^じ近世陶磁器、^{どすい}土錘、^{いしぼうちやう}石庖丁、^{きせる}石斧、煙管、銭貨など

9. 調査成果

(1) 弥生時代から中世にかけての水路(溝跡)を多数検出、水利の要所！

西野々遺跡中央部には弥生時代(中期・後期)、古墳時代(6世紀末～7世紀前半)、古代(奈良末～平安初め・平安後期)、中世(平安末～鎌倉・室町)の各時代の水路(溝跡)が複数重複しており、水利の要所であったことが窺えます。最初に、水路が設置されるのは弥生時代中期で、昨年度の調査区から続いており、その延長は 400m にも及び、弥生時代後期の水路もほぼ並走した形で掘削されました。この2条の水路(溝跡)以外はいずれも地形に沿って北西方向に延びており、Ⅲ・Ⅳ区の北側には集落や水田などが遺存する可能性もあります。

これら水路(溝跡)は維持管理が行き届いていたとみられ、遺物量は多くありませんでしたが、Ⅲ区からは6世紀末から7世紀前半と10世紀後半、Ⅳ区からは弥生中期、Ⅴ区からは弥生後期の遺物が比較的まとまって出土した箇所もあります。

(2) 官衙関連施設と見られる建物跡13棟を確認

これらの建物は5カ所から数棟単位で確認され、昨年度調査した郷家関連とみられる建物跡群に付随する施設ではないかと考えられます。中でも規模が比較的大きいⅢ区の3間×5間の東西棟建物(約45㎡)やⅣ区の2間×5間の東西棟建物(約39㎡)は、その性格が注目されます。特に、Ⅲ区の建物は梁間3間と構造的に古い形態を呈しており、昨年度の建物群に先行することも考慮しなければなりません。

(3) 四国で初めて中世の『方形区画墓(方形環濠墓)』を発見!

Ⅲ区南部の山際から長辺 1.62m, 短辺 0.85m, 深さ 0.3mの土坑墓(主体部)とその周囲を二重に区画する幅 0.5～0.7mの溝跡を確認しました。このように土坑墓(主体部)の周囲を溝で区画した墓は四国ではまだ確認されておらず, 墓制の出自が注目されます。一般的には土坑墓だけで, 付随施設はみられません。

この形態の墓は近年, 関東などで確認されるようになり, 方形環濠墓と呼称されることもありますが, 名称自体も一般化していません。今回のものはほぼ同形態ではありますが, この区画溝は環濠と言う規模ではないことから『方形区画墓』という名称にしました。

また, 主体部からは14世紀頃とみられる土師質土器の杯と小皿が副葬されており, 南に近接して確認した土坑墓からも同様の土師質土器が出土しています。

(4) 中世の屋敷跡および畠地を確認

Ⅲ区から4ヵ所, Ⅳ区から3ヵ所の建物のまとまりを確認しました。これらはそれぞれ溝で区画されており, 規模の大小はみられますが, それぞれが屋敷を構成していたものと考えられます。これらは一定の畠地(畝状遺構)を隣地に設けており, 中でもⅣ区の屋敷に伴うと考えられる畠地は比較的良く残っていました。

これら屋敷の時期は, 出土遺物から12世紀中頃から14世紀にかけてのものと考えられます。

(5) 近世以降とみられる畝状遺構を検出

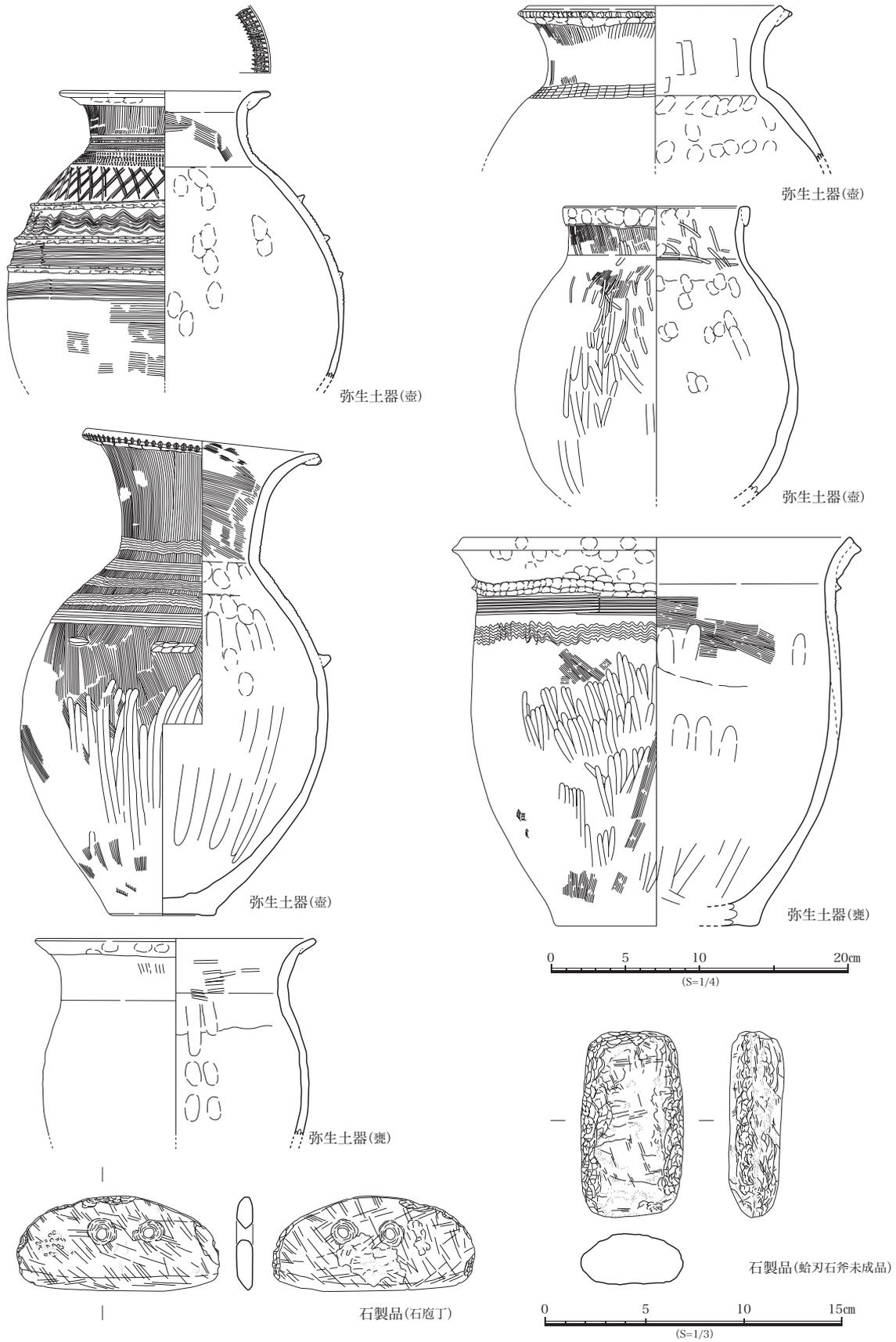
V区の西半部において, 近世以降のものと思われる畝状遺構が多数集中して検出されました。南北方向の小規模な溝状遺構が各所に群集しており, それらはいくつかのグループに分けられます。これらの畝状遺構は, ほぼ同一規模の溝状遺構がそれぞれ平行・近接して集中的に分布する状況から, 畠跡ではないかと考えられます。

10. まとめ

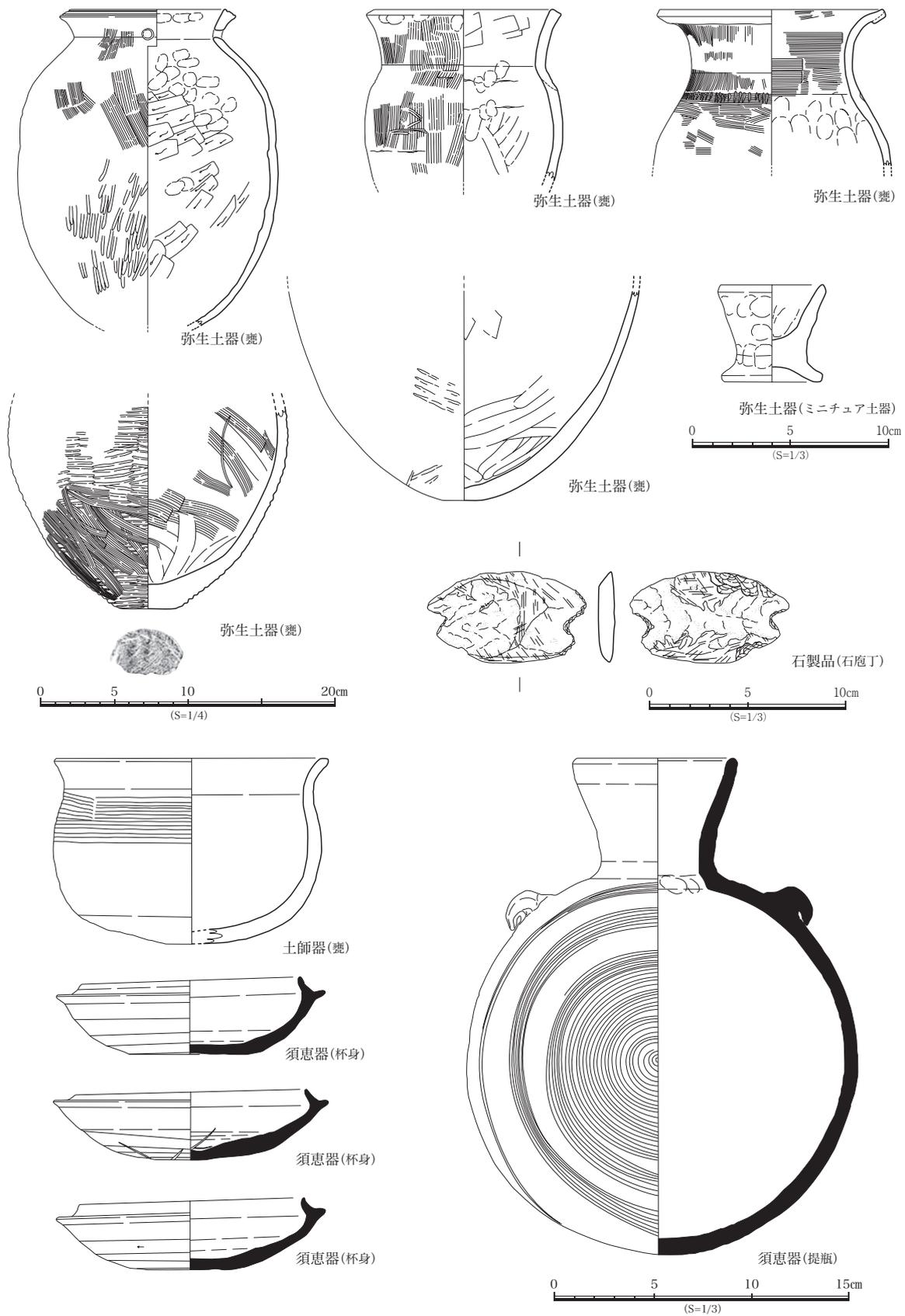
昨年度に引き続き西野々遺跡の発掘調査を行い本年度は四国初の『方形区画墓』を始めとして, 弥生時代から中世にかけての水路に限られた場所に各時代複数重複して設置された県内でも類例をみない遺跡であることが判明しました。遺構配置図にあるように重複している場合, 古い時代の水路(溝跡)は新しい時代の水路(溝跡)に壊され, その痕跡がほとんど残っていないこともあります。中には最大8条の水路(溝跡)が重複した箇所や幅約2mの水路(溝跡)に4時期の水路(溝跡)がほぼ同一方向で重複していたものもありました。

いずれにしてもこの調査が南国市の歴史, ひいては県内の歴史の空白部分を埋める役割を果たすものと思われます。また, 遺跡の成り立ち, 古環境の解明は, 人間の生活の移り変わりを示すものであり, 歴史の叙述に欠くことのできないものです。発掘調査は継続中であり, さらに来年度も計画されており, 今後更なる発見も期待されます。

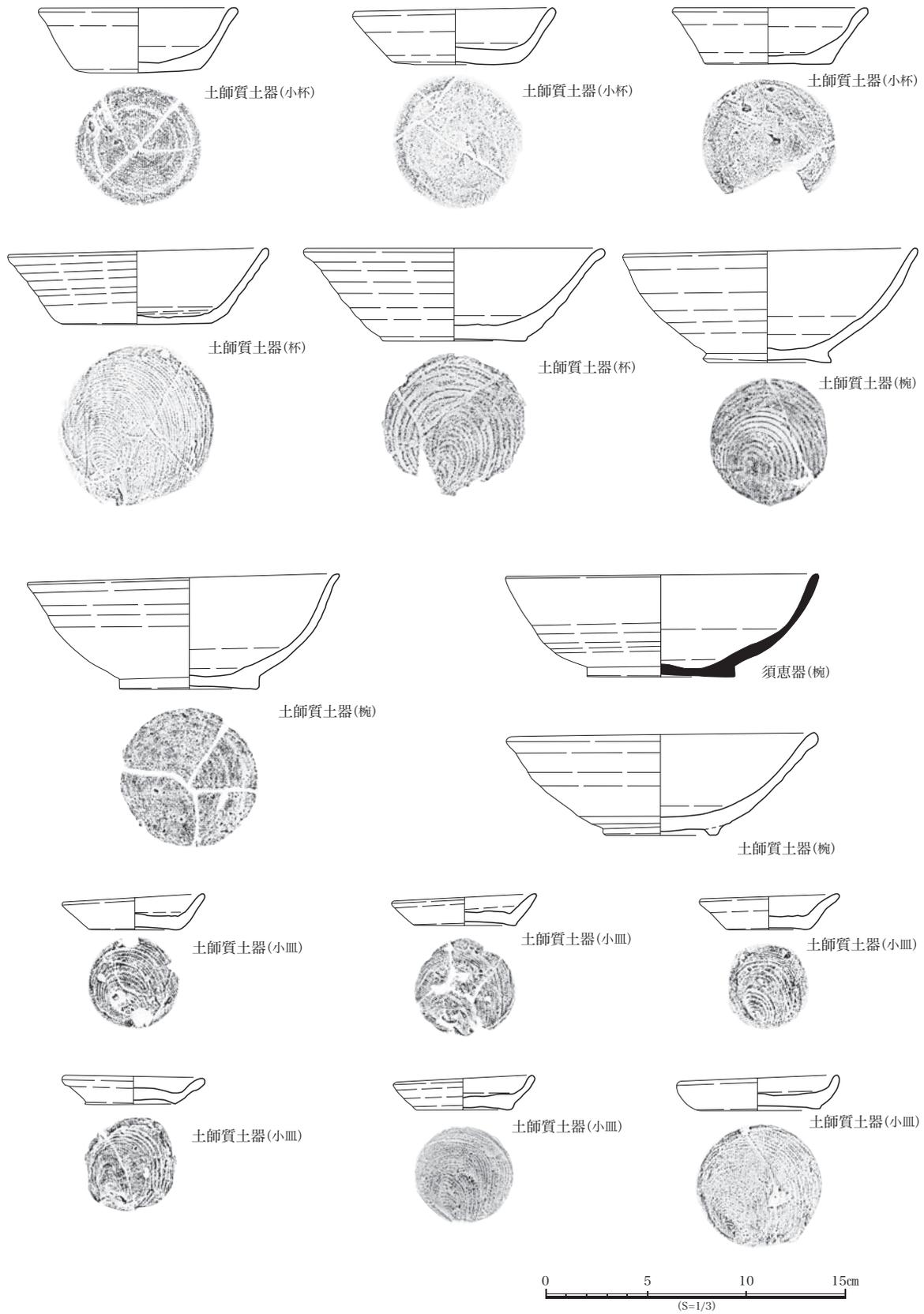
最後に, 調査にあたり多大なご理解とご協力を頂いた土佐国道事務所, 地元並びに関係者の皆様には心からお礼申し上げますと共に今後ともご協力を切にお願いします。



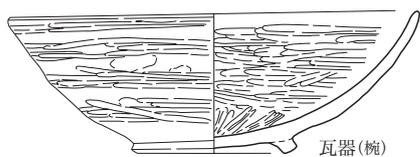
出土遺物実測図1 (弥生時代中期の土器と石製品)



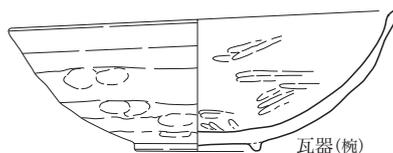
出土遺物実測図2 (弥生時代後期の土器と石製品, 古墳時代後期の土師器と須恵器)



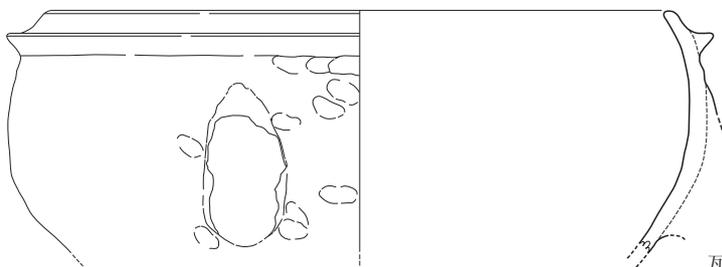
出土遺物実測図3 (平安時代から鎌倉時代にかけての土師質土器・須恵器)



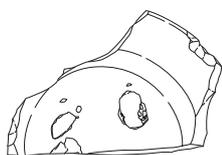
瓦器(碗)



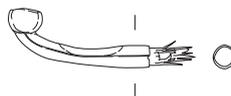
瓦器(碗)



瓦質土器(鍋)



唐津焼(皿)



煙管(吸口・雁首)



出土遺物実測図4 (平安時代末から近世の遺物)



Ⅲ区南東部完掘状態(西より)



Ⅲ区南西部完掘状態(東より)



方形区画墓(南より)



方形区画墓主体部副葬品出土状態(南より)



弥生時代中期の土坑の遺物出土状態(南より)



中世の溝断面(東より)



弥生中期の溝断面(西より)



弥生時代から古代の溝断面(西より)



中世の柱穴断面(西より)



古墳時代の溝の土師器出土状態(西より)



IV区東部遺構検出状態(西より)



IV区東部遺構完掘状態(西より)



古代の掘立柱建物跡1(北より)



古代の掘立柱建物跡2(北より)



古代の掘立柱建物跡3(西より)



弥生時代中期の溝の遺物出土状態(北より)



IV区西部遺構検出状態(東より)



古代の掘立柱建物跡4(東より)



IV区湿地状遺構(西より)



土師質土器出土状態(東より)



V区東部遺構完掘状態(西より)



V区西部遺構完掘状態(東より)



V区東部遺構完掘状態(東より)



V区東部溝跡完掘状態(西より)



V区発掘調査風景1(東より)



弥生土器出土状態1(西より)



V区西部溝跡完掘状態(東より)



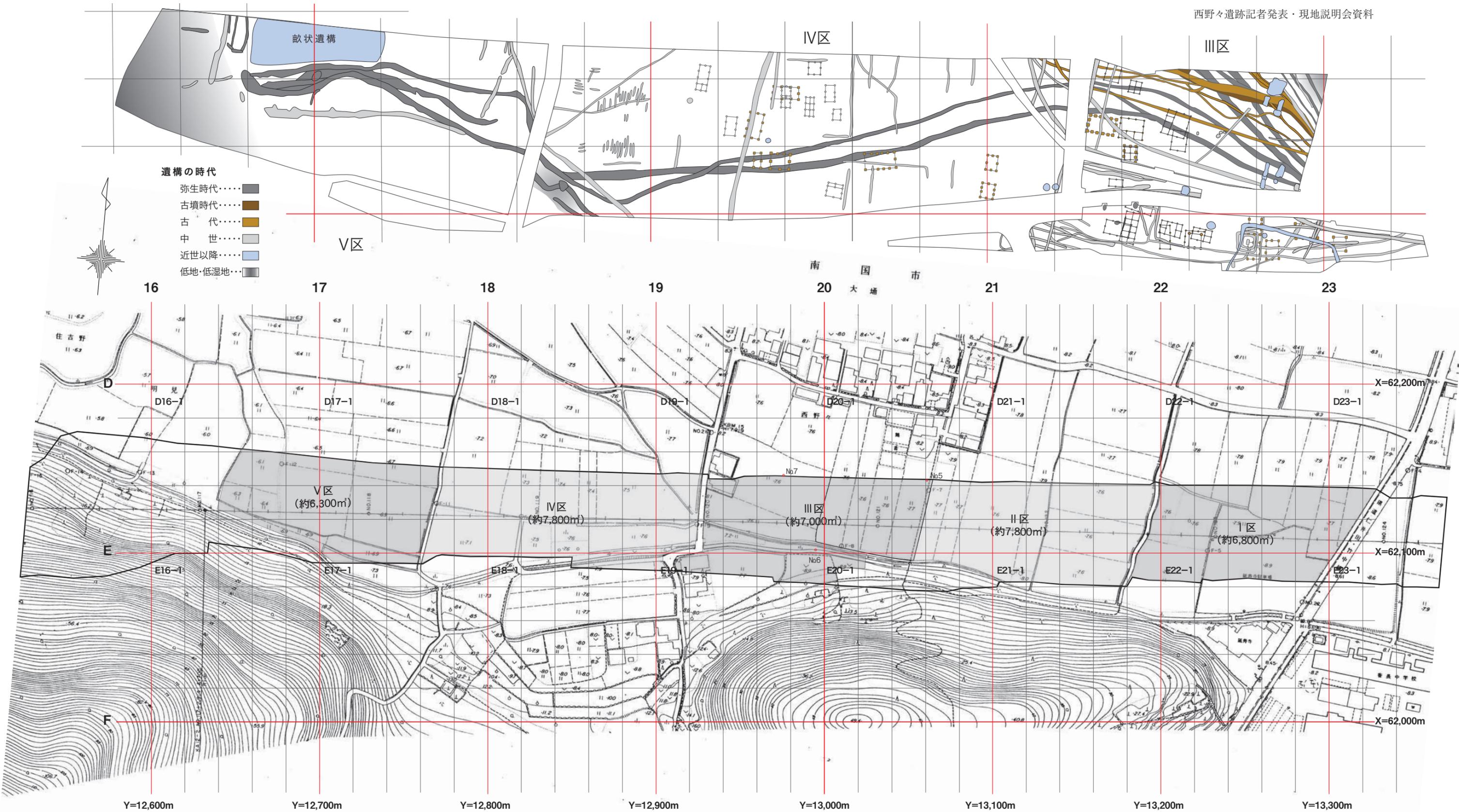
V区西部畝状遺構完掘状態(北より)



発掘調査風景2(東より)



弥生土器出土状態2(北より)



平成 16 年度調査完了区：I 区, II 区, III 区の東半分
 平成 17 年度調査予定区：III 区の西半分, IV 区, V 区

西野々遺跡発掘調査区全体図・グリッド設定図(S=1/2,000)と平成17年度調査遺構配置図(S=1/1,000)

